

リスクコミュニケーションの必要性

国立医薬品食品衛生研究所
食品衛生管理部長
山本茂貴

食品安全における リスクコミュニケーションとは

- Codex委員会の定義(現時点での)
 - **リスクアナリシスの過程**において行われるリスクアセッサー、リスクマネージャー、消費者及びその他の**関係者間**でのリスクに関する**相互の意見交換**

リスクコミュニケーションの関係者

- リスクマネージャーとリスクアセッサー
- リスクアセッサーと消費者など
- リスクマネージャーと消費者など

リスクマネージャーとリスクアセッサー

- リスク評価はリスク管理のツール(Codex)
 - 自ら評価はどうするのか？
- リスクマネージャーが何をしたいのか
 - マネージメントオプション(管理措置)
 - アセスメントの範囲、方針、期限

リスクマネージャーとリスクアセッサー

- リスクアセッサーは何ができるのか
 - 万能ではないが
 - 衛生規範やガイドンスを作成する場合
 - 定量的基準値を設定する場合
 - 食品衛生管理システムの同等性を評価
 - フードチェーンにおける管理ポイント
- 諮問された管理措置以外の措置
 - リスクランキング
 - 問題点の洗い出し、絞り込み(予算も考慮可能)
 - 自ら評価?

リスクアセッサーとリスクマネージャー

- リスクアセスメントの結果報告
 - 理解しやすく
 - Uncertainty (不確実性) の程度 (定量的評価)
- すべての過程で透明性を保つ
 - 情報公開 (傍聴とは限らない)

リスクアセッサーと消費者など

- リスアセスメントの過程
 - リスクに関する情報の交換
 - 結果をわかりやすく説明
 - **すべてがオープン(日本)**、結果がオープン(諸外国)
- コミュニケーション
 - 信頼関係
 - リスクに関する新たな知見
 - 消費者が知っていること
 - **業界が知っていること**

リスクマネージャーと消費者など

- 管理措置の比較
 - 管理措置の説明
- リスクアセスメント結果の解釈
 - 管理者としてどう判断したか。
 - 予算はどの程度かかるか？
 - 消費者や関係者がどの程度理解したか。
- 管理措置の効果の検証(レビュー)
- 見直し

BSE問題のリスクコミュニケーション

- 誰が誰に伝えるのか
 - 誰が: リスクマネージャー、リスクアセッサー
 - 誰に: リスクマネージャー、生産者、製造者、消費者
- 何を伝えるのか
 - 管理措置、アセスメント結果
- いつ伝えるのか
 - 施行前、評価終了後
- どこで伝えるのか
 - 場所の広さ
- どのように伝えるのか
 - 専門的、一般的

専門家の育成、トレーニング

- コミュニケーター
- スポークスマン
- コーディネーター
 - 組織のすべての人が基本トレーニングを受ける
- 方法論
 - メディア
 - プレゼンテーション
 - 社会心理学的手法

参考文献

- The application of risk communication to food standards and safety matters. FAO Food and Nutrition paper 70 (ISSN 0254-4725) Rome, 1999.
- 食品のリスクアナリシス 山本茂貴、山崎省二 共編 オーム社 2004
- 食品安全システムの実践理論 新山陽子編 昭和堂 2004